

## 37. 植物の染着力及び色調の探究

安田学園 上畑 もつ

1. 人間の生活には「間」を必要とする。この「間」を高度に活用するならば、偉大な生活力となるであろう。ここに植物染の探究をとりあげた理由は、趣味性の向上、創造のよろこび直接間接に徳操風格を養い、人間形成の上に、社会福祉の上に貢献することができるからである。この意味において実用性と趣味性とを兼備する染色を通し、自然界の秘蔵せる成分の作用を追求せんとするものである。

2. 植物の含有する複雑な成分が、他の物質の作用により変化する状態を探知するために、次の項目によって試験を行なう。

### 植物染料の染着度及び色の変化の試験法

1. 植物の種類による試験
  2. 媒染剤の種類による //
  3. 浸染の時間経過による //
  4. 太陽光線及び温度による //
  5. 手法の繰り返えしによる //
  6. 繊維の種類による //
3. 1. 一般に植物染料は色に渋味があり、色のやわらかさと深味とが侵し難い品位を保持す。
2. 同一植物の含有成分は、媒染剤によって色の傾向を異にする。
3. 殆どの繊維に染着し、太陽の影響も大、以上の結果を得たが、堅牢度その他について科学的な研究に歩を進めつつある。